

「麗しのロザライン」

作…佐藤剛史

登場人物

・ロザライン

薄明かりの中、女が一人いる。

ロザライン ああ、ロミオ、ロミオ。どうしてあなたは・・・

明るくなる。

ロザライン 「麗しのロザライン」あなたは私にそう言った。そうよ、自慢じゃないけど、私はいろんな人に愛の言葉をもたらしたわ。だからあなたもそのうちの一人。でも「麗しの」って、直球すぎてダサくない？ 別に嫌いってわけじゃなかった。ちよつと迷ってたのよ。

だって、あなたは年下だったから。そうでしょ。自分でもわかっている。私は少しわがままなの。だから私のわがままを受け入れてくれる大人の男じゃないとダメ。それなのにあなたは毎日のようにやって来て、愛の言葉を口ずさむ。

「しつこくしないで！」って言ったらあなたは悲しそうな目をしたわ。私、その目を見て何故かぞくぞくしちゃったの。ちよつと意地悪な私が目覚めてしまったのね。

あなたは街で評判だった。品行方正。おぼっちゃま。そんなおぼっちゃまがムキになって私に熱を上げるだなんて。

ちよつとした優越感。しばらくこの距離で相性を見てみようかしら、なんて思ったわ。そう思ったのよ。それなのに・・・

ロザライン ああ、ロミオ。どうしてあなたはあの娘を選んだの？ あなたは私のことを好きって言ったじゃない。

あの舞踏会の日だって、私に会いに来たんじゃないの？

あのキャピュレットの小娘に私が負けるなんて、許せない。十三歳ってまだ子供よ。そうね、十六歳のあなたもまだ子供ね。二人でおままごとでもしたかったのかしら？ でも、あなたが先に好きになったのは私のはず。これはヤキモチなんかじゃないの。曖昧なままはいけないって言いたい。ちやんと一つ一つ片付けて

から次へ行くべきなの。

あれでしょ。反対されるから余計燃えちゃうっていう。私の時と一緒にじゃない。「ダメ」って言われると燃える性質（たち）……しまった。向こうの「ダメ」の方が圧倒的にハードルが高い……

ロザライン ああ、ロミオ。どうしてあなたは死んでしまったの？
「ロザライン。君のためなら死ねる」ってあなた、私に言ったわよね。そんなの恋にほだされて口走ってるだけだって知ってるわ。男なんてみんなそう。でも、あなたはあの子のためにはほんとに死ねるんだ。死んだら何にもならないのに……。っていうか、死ぬぐらいの気持ちがあるなら、堂々と親に反抗してさっさと駆け落ちすればよかったのよ。そうすれば貧しくても、二人で生きていけたのに。よく考えもせず、その場その場の感情で行動するなんて、まるで子供ね。……子供か……

ロザライン 永遠に会えないと思うと少し寂しい。時々あなたのあの悲しそうな目を思い出す。
ひよっとしたら私はあなたを待っていた？ 私を奪いに来てくれるのか、と。私のために死んでくれるのか、と。それなのに……
ああ、ロミオ、ロミオ……

ゆっくりと暗くなっていく。

— 幕 —

もし一般の方向けに上演する場合、冒頭に以下のような語りを足していただくとうわかりやすいと思います。

語り シェークスピアの「ロミオとジュリエット」。二人の若者の恋愛悲劇として有名です。ところで、二人の出会いの場となる舞踏会になぜロミオは出かけたのか皆さんご存知でしょうか？ それは恋する女性に会いに行くためです。その女性とはジュリエットではありません。だって二人はまだ出会ってないのですから。その時ロミオが恋焦がれていた女性の名前はロザライン。これは、恋多き一人の男に振り回された一人の女のお話です。